

令和5年度第1回四街道市総合教育会議議事日程

日時：令和5年5月19日（金）

午前10時00分から

場所：市役所第二庁舎第2会議室

1 開 会

2 市長挨拶

3 協議事項

①四街道市教育の振興に関する施策の大綱の一部変更について

②第2期四街道市教育振興基本計画策定の進捗状況について

4 閉 会

第1回四街道市総合教育会議会議録

日 時 令和5年5月19日（金） 午前10時00分～午前10時45分

場 所 四街道市役所第二庁舎第2会議室

出席者	市	長	鈴木 陽介
	教 育	長	府川 雅司
	委 員	員	小舘 修
	委 員	員	豊田 恵子
	委 員	員	池田 肇
	委 員	員	秋山 伸子

出席職員	教 育 部	長	石川 智彦
	教 育 部 副 参 事		真田 裕之
	教 育 総 務 課	長	久保木直樹
	総 務 係	長	小安 敦夫
	主 事		久保ももか

傍聴人 1名

○**教育部長** ただいまより令和5年度第1回四街道市総合教育会議を開会いたします。

現在の傍聴人は1人です。

初めに、鈴木市長よりご挨拶をいただきます。

○**市長** おはようございます。本日は、令和5年度第1回四街道市総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様にはいろいろな場面で四街道市の教育行政に多大なるご貢献をいただきまして、本当にありがとうございます。

先日、千代田中、北中での運動会や小学校の陸上競技大会がありました。子どもたちの真っ直ぐな瞳に触れて、とても頑張っていることを感じた次第であります。

また、現在、四街道市のタウンミーティングを行っておりまして、20年後を想定し総合計画の話をしています。若者から高齢者までいろんな属性の人から様々なご意見を出していただいているので、非常に考えるきっかけにもなりますし、教育のことも当然お話としては出てきております。

さて、総合教育会議でございますが、前回1月に開催した総合教育会議におきまして、新たな四街道市教育の振興に関する施策の大綱について委員の皆様と意見交換を行わせていただきました。その中で四街道市の教育が目指す人づくり、また、育む力について決定をさせていただきました。教育委員会事務局では、新大綱の内容を踏まえながら第2期四街道市教育振興基本計画の策定を進

めていると伺っております。本日は、この計画策定に関連いたしまして、記載のとおり議題が2つございます。限られた時間ではございますが、ぜひとも皆様の忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

また、傍聴にお越しの方、本当にありがとうございます。四街道市の教育に関するいろいろな議論をぜひ聞いてもらえればと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日どうぞよろしくお願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございます。

それでは、四街道市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、これより鈴木市長に議長をお願いいたします。

○**議長** それでは、議長を務めさせていただきます。

協議事項、①四街道市教育の振興に関する施策の大綱の一部変更について、事務局から説明をお願いします。

○**教育総務課長** 教育総務課長の久保木です。

資料1、四街道市教育の振興に関する施策の大綱（一部変更案）を御覧ください。四街道市教育の振興に関する施策の大綱につきましては、昨年度1月19日の総合教育会議における協議を経て、内容を決定した案件となりますが、審議会、四街道市教育振興基本計画策定委員会と情報共有を図りましたところ、審議会会長より、四街道の教育が育む力の「いきる」、「変化し続ける社会を主体的に生きる力」について、「いかす」、「良さや可能性を見出し、いかす力」に変更できないかのご相談がございました。昨年度の総合教育会議では、「いきる」の説明の中にある「主体的」という言葉が分かりにくい、「うごく」が示す自ら学び、考え、判断し、行動する力と「いきる」が示す変化し続ける社会を主体的に生きる力の内容が重なるのではないかと「いきる」ではなく「いきぬく」力としてみてはどうかなどといった多様な観点からご議論いただき、内容を決定していただいたところですが、今回新たな論点として、自分、相手、人だけでなく物や事柄など、あらゆるもののよさや可能性を見だし、生かす力が、四街道の教育が育む力の要素に加わるとさらによい内容になるのではないかとのご意見をいただいたところでございます。

総合教育会議における決定は非常に重いものとして認識しておりますけれども、事務局といたしましても、現在の内容をさらによくする上でご意見の反映が望ましいと考えますことから、資料のとおり、内容の一部変更について改めてご協議いただきたくお願いするものでございます。

具体的な変更案といたしましては、四街道の教育が育む力の「い」を「いきる」から「いかす」へ、「変化し続ける社会を主体的に生きる力」を「良さや可能性を見出し、いかす力」へ変更し、「う」の「うごく」を「自ら学び、考え、判断し、行動する力」から「自ら学び、考え、判断し、主体的に行動する力」へ変更することで、これまで「いきる」が表していた要素を「うごく」の中で捉えられるよう文言を変更したいと考えております。

協議事項①では、この一部変更案につきまして、皆様にご協議いただき、最終的に変更の可否を決定していただきたいと思っております。

○議長 いろいろな意見を反映した上での変更ということではありますが、発言のある方は挙手をお願いしたいと思います。池田委員。

○池田委員 これまで話し合いをしてきて、前回は生きる、または生き抜くということで議論してきていたのですが、今回審議会の皆様のご意見で「いかす」でどうかと。「いかす」については、人づくりの部分につながることで、つながるとか、そういうところにつながる面もありますし、それから、今後審議会中心となる具体的な作業に入っていくわけですが、その方々の思いというか、意見もこうして上がってくるということはよくしたい、さらにいい案があるというふうに思いますので、基本的に私はこの変更賛成したいと思っております。

○議長 ありがとうございます。

他にご意見はありますか。

豊田委員。

○豊田委員 私も、ほとんど池田委員と同じなのですが、前回の総合教育会議では、四街道の教育が育む力、生きる、と生き抜くということについて、議論しましたけれども、今回、教育振興基本計画策定委員会の審議会から新たな言葉として「いかす」を挙げていただきまして、事務局の説明から大綱を更により良いものにするためにこのご提案をいただいたと感じました。「良さや可能性を見出し、いかす力」とは、今までの「いきる」、「変化し続ける社会を主体的に生きる力」と意味合いも関連しますし、より前向きな希望をこの言葉に感じました。私も、この「いかす」に変更していいと思います。また、その後の「うごく」のところに「主体的に」という言葉をつけることで、より明確に自分自身が学び、考え、動いていくのだよというメッセージを感じられますので、こちらに「主体的に」という言葉をつけることにも賛成をしたいと思っております。

○議長 他に何かありますでしょうか。

秋山委員。

○秋山委員 前回の会議のときには、候補が生きて生き抜くということで、どちらかに決めるという感じでしたので、ほかの言葉は念頭になかったのですが、今回さらによりよい形で「いかす」という候補があがり、より良い言葉が出てきたと思います。そして、「良さや可能性を見出し、いかす力」というのは、前回会議のとき「いきる」の説明として変化し続ける社会を柔軟に生きる力、また創造的に生きる力、という選択肢があったかと思っております。この2つはそれぞれ「良さや可能性を見出し」創造するということでもあり、可能性を見出す、その中には、しなやかに生きていくという意味合いも感じられると思います。池田委員、豊田委員と同じく賛成です。その後の「うごく」の「主体的」の記載に対しても、賛成します。

○議長 ありがとうございます。

他にごありますか。

小舘委員。

○小館委員 基本的に、3人の皆さんのおっしゃったとおりだと私も思いました。今協議している次期大綱に関して言えば、やはり老若男女、あるいは様々な違いを乗り越えて協力してこれからの社会をつくっていく。その当事者として共生社会を一緒につくっていくのではないかという思いが基本にあると思うのです。そう考えたときに、この「いきる」という言葉から「いかす」に変更するというので、私は2点の観点から賛成したいと思います。

1点目は、個人の生きる力に加えて他と協働して、やはり「しなやかに」という言葉がありましたけれども、そういうよさ、あるいは自分のよさ、可能性、これ信じて取り組んでいくのだという、前向きな響きを感じられる。これが1点です。

2点目は、この「いかす」という言葉には自分だけではないと。先ほど共生社会という話をしましたけれども、この理念の肝を目指すことに通じ、他者のよさを認めて、それを支えて、それを生かして一緒に幸せになっていくのではないかというすばらしい思いが伝わってくるなど思いました。それから多様なウェルビーイングという言葉も、前回の話の中で出てきましたけれども、その実現ということのためには、やはり何よりも他者のよさを認めて、そして励まして、支えて、社会で一緒になって実現していくという思いがなければ実現できないと思うのです。ともすると、これまでの教育の反省というのは違いに目が行きがちになる、あるいは障害に目が行きがちになる、そして不得意なことを克服していく、そのようなところに目が行きがち傾向があったと言われますけれども、そういうことが結果的に差別感を助長する、あるいは自分を卑下することに繋がるとも言われています。でも、この「いかす」という言葉を見たときに、自分の好きなこと、得意なこと、あるいは他人の小さなよさや共通点、そういうものを大切にして協力して互いに生かして、時には他人の相手の背中を後押しして先に行かせると、そういうふうな「行かす」という言葉の意味も含めて、これからの社会のあり方において必要な基本ではないかなと思います。そういう意味で賛成をしたいと思います。

○議長 ありがとうございます。

教育長、お願いします。

○教育長 今4名の委員さんがおっしゃったように、これからはやはり社会がつながっていかなければいけないだろうと思います。ですから、基本理念に書いてありますように、「学び つながり 輝きあい とともに生きる」、この4つの基本理念の観点、これはやはり大人も子どももつながっていく必要があると。その中でお互いに、いかし合っていくことも非常に重要だなと思います。そのように多分審議会の会長さんは受け止めて、事務局に提案があったのだと思います。私もその審議会のご意見を大切にしていきたいなと思いますし、今、教育委員の皆さん方の考えも伺いまして、「いかす」の方向で賛成していきたいなと思います。

○議長 ありがとうございます。

今5名の方のお話を聞いていて、理解が深まったなと思います。「いきる」というのは、正直これは、全部に関わる総合的な言葉ですから。確かに1つだけ大きなテーマかなと、最初に指摘されたときに思いました。「良さや可能性を」という話があったときに、これは何のよさなのだろうと

最初思ったのです。何のよさって書いていないじゃないですか。どちらかという生かすだから、他者とのつながりとか他人のよさを生かすというようなところに、自分としてはウエートを置いて見ていたのですが、小館委員の、自分のよさをどう生かせるのかということもすごく大事なのだという話を伺い、自分も大切にしなければいけないなということをととても感じました。特に子どもは大事だと思いますが。そういったところで「いかす」というのは、すごく広い意味があると感じました。もちろんこの四街道という、この地域のよさを生かしながら、自分がこの中でどうウェルビーイングを高めていくかということも大事なことだと思います。これは教育のことなのですが、まちづくり全体に、この人づくりとして育む力を、全部反映させたいなという衝撃を受けてしまいました。とてもいいテーマ設定が皆の議論でできたのだなと感じています。議長という立場で僭越なのですがそのような感想を持ったところです。

ということで、これは「いかす」という言葉にして、そして「良さや可能性を見出し、いかす力」ということで、資料1に示された事務局案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○議長 ありがとうございます。

それでは、このような変更をさせていただきますので、事務局はよろしくをお願いします。

続きまして、協議事項②、第2期四街道市教育振興基本計画策定の進捗状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○教育総務課長 資料2、令和5年度第2期四街道市教育振興基本計画策定スケジュールを御覧ください。

初めに、現在の作業状況についてご説明いたします。第2期四街道市教育振興基本計画につきましては、2月の教育委員会会議による議決を最終目標としております。その前段には、審議会における計画案に関する答申を8月、市民参加におけるパブリックコメントを10月に予定しており、それぞれの円滑な実施に向けて作業を進めています。現在、庁内では計画案の作成に着手したところであり、計画の骨子について文章や図表等、まだ埋まっていない部分が多々ありますが、本日は進捗状況ということで現時点までの作成状況につきまして、計画全体の構成をご説明させていただきます。

資料3、第2期四街道市教育振興基本計画骨子案を御覧ください。

目次を御覧ください。計画の構成について、第1章、計画の策定にあたって、第2章、教育を取り巻く環境の変化、第3章、四街道市の教育に関する現状、第4章、四街道市教育の振興に関する施策の大綱、第5章、施策の展開、第6章、計画の推進体制、以降、資料編の6章プラス参考資料の流れで計画の骨子案を作成しています。

続きまして、1ページを御覧ください。第1章、計画の策定にあたってということで、策定の趣旨について、これまでの取組や国の動向等に触れた内容を記載したいと考えています。

続いて、2ページを御覧ください。計画の位置づけについては、教育基本法に基づく計画として策定するものであり、国や県における同計画の趣旨を参酌するとともに、市の最上位計画である総合計画や市長が定める教育大綱と整合を図るものとします。

計画の期間については、令和6年度から令和10年度までの5年間を対象期間とし、最終的に図を差し込みます。

続きまして、3ページを御覧ください。計画の策定体制については、教育委員会内と教育委員会外のそれぞれに機関を設けており、それぞれの意見を集約していく体制を文章や図で表記します。

4ページを御覧ください。まだ空欄になっておりますが、こちら第2章、教育を取り巻く環境の変化ということで、全国的な社会動向については、少子高齢化・人口減少、高度情報化・グローバル化、社会情勢、経済・雇用状況、スポーツ・文化芸術活動、続いて5ページです。生涯学習、SDGs等を掲げていく予定でございます。

続きまして、7ページを御覧ください。教育政策の動向については、国の第4期教育振興基本計画、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想の推進、教職員の働き方改革、千葉県の動向等に触れていく予定でございます。

続きまして、8ページを御覧ください。第3章、四街道市の教育に関する現状になります。人口等の現状については、年齢三区分別人口の推移や人口動態を整理しており、四街道市の総人口は増加傾向となっておりますが、出生者数は年々減少しており、市外からの転入による社会増が総人口の増加要因であること、年少人口、生産年齢人口では外国人の増加が進んでいることなどが特徴として読み取れます。

続きまして、11ページを御覧ください。児童生徒の現状については、小中学校の児童生徒数の推移を図表に示しています。平成30年度と令和4年度の比較では中央小、みそら小、栗山小、吉岡小の4校が減少となっておりますが、その他の小中学校は横ばい、または増加の状況となっております。

続きまして、13ページを御覧ください。全国学力・学習状況調査の結果については、小学6年生の国語・算数の正答率の推移、中学3年生の国語・数学の正答率の推移を図表に示しています。令和元年度と令和4年度の比較では小学6年生の国語が横ばいとなっておりますが、その他は低下となっており、いずれも千葉県や全国の平均を下回る状況となっております。

15ページを御覧ください。不登校児童生徒数の推移について、人数をグラフに示しています。児童生徒ともに増加傾向にありますが、特に中学校の不登校生徒が増加しています。

16ページを御覧ください。生涯学習・スポーツ活動の現状については、図書館、公民館、市民ギャラリー、運動公園、温水プールの利用状況の推移をグラフに示しています。全体的な傾向として、令和元年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により施設全般で利用数が減少となっておりますが、令和3年度以降、徐々に回復傾向となっております。

続きまして、23ページを御覧ください。アンケート結果から見る教育的ニーズや課題については、昨年6月に実施したアンケート結果の概要を掲載しています。このアンケート項目は、時間の都合上、先に進めさせていただきます。

続きまして、44ページを御覧ください。第1期計画（後期計画）の成果と課題については、現在まとめ中ですが、現行計画に基づく取組の結果を、基本方針順に整理していきたいと考えております。

続きまして、56ページを御覧ください。第4章、教育の振興に関する施策の大綱、四街道市が目指す教育の姿については、総合教育会議で決定した基本理念、四街道の教育が目指す人づくり、四街道の教育が育む力を記載しております。前回総合会議で決定した内容を掲載しております。本日からこちらの修正についてご協議いただきましたので、今後この資料の修正を行います。

続きまして、57ページを御覧ください。計画の視点については、総合教育会議や審議会で議論を重ね、決定した内容を掲載していきます。

続きまして、58ページを御覧ください。第5章、施策の展開ですが、これから議論を重ね、内容を練り上げていく部分となります。現在の構想では四街道の教育が目指す人づくりを5つの基本目標として、施策の体系図を作っていく予定でございます。

続きまして、59ページを御覧ください。以下、基本目標ごとに施策の方向性、成果を測る指標、主な取組と内容を整理していきます。

続きまして、71ページを御覧ください。第6章、計画の推進体制ということで、市民や関係機関との連携、計画の適切な進行管理、新たな教育課題への対応を通じて、四街道市が目指す教育の実現を目指していくこととしております。

73ページを御覧ください。こちらが資料編です。以下のページに参考となる資料を掲載し、計画全体の概要となります。

最後に、別資料です。資料4、施策体系図イメージを御覧ください。先ほどの資料3の58ページの抜粋になりますが、右側に主な取組につながるキーワードを掲載しています。こちらは、現在、庁内における作業部会において検討中の内容となっておりますが、基本理念、基本目標、施策と四街道の教育が目指す姿とのつながりをきちんと意識しながら施策をまとめていきたいと考えております。

以上、計画策定の進捗状況です。

○議長 ありがとうございます。

意見交換に移らせていただきます。発言のある方は挙手願います。

豊田委員。

○豊田委員 こちらの資料は、全体的にとっても分かりやすく、工夫されていると感じました。23ページから43ページまではアンケート結果の概要が掲載されていますが、グラフや表と説明文を、設問ごとに分けて表示されているので、とても見やすく、分かりやすくなっていました。

また、15ページの不登校児童生徒の推移というところも、前回は割合だったのが、人数という形で表記していただいたので、ここも把握しやすくなったのではないかと感じました。あと、まだ抜けているところは、これから追記ということだったのですけれども、16ページから22ページまでの3、生涯学習・スポーツ活動の現状で、図書館とか公民館、運動公園等の令和4年度の利用状況は記載がまだありませんでしたけれども、これも集計が取れてから記載されるのでしょうか。

○議長 今の豊田委員の質問でお答えできることがあれば。

教育総務課長。

○教育総務課長 令和4年度の利用者数等は、集計がまとまり次第、掲載いたします。

○豊田委員 はい、ありがとうございます。

○議長 他にございませんでしょうか。

池田委員。

○池田委員 グラフや表で数字が多数出てきていますけれども、どういう思いでそういう資料を載せているのかということに関心がありました。15ページの不登校児童生徒の推移については人数で示してあります。これは、他と比較では割合のほうがいいかもしれませんが、何かそうすると、一人一人を見ないのではないけれども、埋もれてしまうのではないかなと思います。このように数字で表したというのは、僕は一人一人を大事にしたいという思いが伝わってくると感じました。

○議長 ありがとうございます。

他にございますか。

秋山委員。

○秋山委員 いろんなグラフや数値があって非常に分かりやすく、いい資料をありがとうございます。お二方と同じように、不登校児童数のところが人数になって、四街道はこのぐらいいるのだなと分かりやすいと思います。しかし、いろんな方が見たときに、全国または県と比べたときには、どうなのであろうかと思う方が必ずいらっしゃるかと思います。どこかに全国や県と比べたときにはどうであるのかというのが分かるものがあるといいのかなと思いました。

○議長 今のご指摘に対して、現状、何か事務局として考えはありますか。

教育部長、お願いします。

○教育部長 全国や県の状況というのは、やはり同じように集計されているものがあります。秋山委員がおっしゃるように、それが合わさっているほうが、具体的な市の状況というのがより鮮明になるということについては、意見として非常に参考になります。検討させていただきます。

○秋山委員 よろしくお願いします。

○議長 他にございますでしょうか。

行政がつくる計画は、どうしても分かりづらさがあり、市民の方が一緒にやっていくという気をそいでしまうと思っています。この計画は、分かりやすくつくろうという姿勢をとっても感じています。これからよりブラッシュアップしていく中で、その分かりやすさというのをこれからも追求していただきたいと思います。それは、大きな私の思いです。また、1ページ目なのですが、この「VUCA」とは何の略なのでしょうか。知らない人のほうが多いかもしれないので、こういう言葉を使うときには説明をいれてほしいと思いました。何かの多分4つの英単語の略なのだろうと思いますが。

○教育部長 おっしゃるとおりで、その言葉の前に、その変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を示しているものがありまして、頭文字がVUCAになっています。ただ、そこは明記されていないので、説明を入れようと思います。

○議長 変動性の英単語、不確実性の英単語、そういう形で後ろに括弧を入れるというのは、いかがでしょうか。

○教育部長 分かりました。

○議長 8ページから始まる、現状の話ですが、私は現状を把握することはとても大事だという話を日頃からしているのですが、この資料はこうやって資料がたくさん出ていて分かりやすいと思います。

1つお伝えしたいのは、例えば8ページの人口統計は、総合計画で出している人口図とは少し違うと思います。細かいのですけれども、整合性はどうするのでしょうか。

教育部長。

○教育部長 教育に特化したものについては、やはりこちらの資料でということになるかと思いますが、総合計画と同じ項目のものについては、基本的にはそろえるように政策推進課と整合性を取り、すり合わせはしていきたいと思います。

○議長 そうですね、正直、あちらよりもとても詳しい資料がまとめられており、かなり見ていて分かりやすいです。整合性というか、同じ項目があるところはすり合わせが大事なかなと思います。

いろんな意見を酌み取っていいものをつくってほしいと思いますので、よろしくお願いします。

教育長。

○教育長 私も、この構成は非常によく事務局や作業部会等で議論して項立てをしてあると思います。あとは例えば4ページの社会の動向、1の(1)から(7)まである見出しの書き方ももう少し、何か言葉の単語を足してもらえると市民がより深く理解できるのではないかと思います。

あと、8ページは、「外国人の増加が進んでいることがうかがえます」と表記があり「うかがえます」となっている。それから、「なっています」と断定的な表現もあります。そのあたりを、作業部会、策定部会で議論をすることが必要ではないかと説明を聞いて思いました。

これからまたいろいろな言葉が入ってくると思いますので、作業部会、策定部会、タイトな日程で、スピード感を持って取り組んでいかなければいけないと思います。事務局としては頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

○議長 他にございますでしょうか。

豊田委員。

○豊田委員 39ページの地域の教育活動やボランティアに参加・協力したいと思うかについてですが、他の設問の説明文には平成29年の数との比較が載っていて、それで今の増減がわかる、そういう掲載の仕方をしているので、ここも29年のその数字があるのであれば、記載したほうが分かりやすくなるのではないかなと感じました。

○議長 事務局、それはいかがでしょうか。

○教育総務課長 29年の数字について確認しまして、もしあるようであれば、載せたいと思います。

○豊田委員 お願いします。

○議長 他にございますでしょうか。

(特になし)

○議長 それでは、この第2期四街道市教育振興基本計画策定の進捗状況について、事務局には本日いろいろなご意見が出ましたので、本日の会議で示されたこの意見を参考にしながら分かりやすく、市民にとってよりよい計画となるよう引き続き作業を進めていただきますようお願い申し上げます。

皆様から貴重なご意見をいただき大変有意義な会議となりました。ありがとうございました。

最後に、皆様から何かご意見等はございますでしょうか。

(特になし)

○議長 市長部局と教育委員会とこれからもっと密に連携したいと思います。先ほど話がありましたが、やはりまちをつくっていくというのは、本当にみんなの力が必要でして、もちろん行政もそうだし、行政外ともいろいろ連携しなければいけません。そういった中で、この教育の計画が私も大変重要だと思っておりますので、これからも、もちろんこういった会議も大事ですし、ふだんからの連携も大事ですのでこれからもよろしくをお願いします。

それでは、本日の協議事項が全て終了いたしましたので、進行を事務局へお返しいたします。

皆様には円滑な議事進行にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

○教育部長 本日の日程が全て終了しましたので、以上で令和5年度第1回四街道市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。